

IV 区名「都島」と都島区の名の由来

1. 区名「都島」の由来

- ・区名「都島」は、昭和18年(1943)4月に北区と旭区から分区されて区が誕生したとき、明治22年(1889)の市町村制施行時に新村名として採用された名称を継承した。
- ・「都島」の地名は、応神天皇の大隅宮や孝徳天皇の長柄豊碕宮が淀川を隔てた対岸辺り(向かい側)にあったと想定されていることから、『宮向島(ミヤコウジマ)』が転訛したという説と、単純に都があったことから付いたという説の二つが有力である。
- ・豊臣秀吉の時代には、南部の京橋周辺が「京街道」の宿場町として栄え始め、江戸時代に入ると大坂三郷の備前島町、網島町、相生西町、相生東町、野田町を形成した。また、都島通以北の地域が都市近郊の農村地帯として開墾されていった。
- ・「毛馬桜之宮公園」内(網島町11)に、石碑「都島由来記」が建っている。

2. 都島区の名の由来

「片町」

・かつての「片原町」が略称された。「片原町」は京街道の片側町であったことに因む。

「野田町」… 鯉江川に架かる公儀橋「野田橋」に由来する。

「備前島町」… 鯉江川に公儀橋「備前島橋」が架かる

・近江・鯉江城主の「毛利(森)備前守定春」が秀吉から一領を与えられて住まいしていたこと。また、秀吉の将の「備前宰相」(宇喜多秀家)が邸を構えたことによる。

「網島町」

・もと島下郡吹田村と野田村の網干場であったことに因む。(『大阪府全志』)

また、『摂津名所図会大成』には、「此地ハ淀川の堤にして漁家つらなり鮮魚を多く市に出す。さる程に軒毎に終日網を干ゆへ斯ハなづけ初しなるべし」とある。

「善源寺町」… 奈良時代に行基が建立した「善源寺」があったと伝えられ、また、明治40年まで当地に黄檗宗寺院の「善源寺」があったことに由来する。

「友淵町」… 『住吉大神代記』に、「長柄船瀬の「西限鞆淵」とあり、この鞆淵が当地付近に該当するとの伝承に由来しており、「鞆」に「友」の字をあてた。

「内代町」… 寛永20年(1643)から徳川氏代官の支配地になったことによるとされる。

「毛馬町」… 天正年間(1573~91年)に織田氏が「毛馬城」を築き布陣したことに因む

<参考>「榎並荘」について

- ・茨田堤の構築によって陸地化が進み、平安時代には農地が開墾されて荘園となった。
- ・鎌倉時代中期には摂関家の嫡流である近衛家が同荘を掌握し、室町時代には北野社が領有した。

・「榎並」の名は、この地が大川の南、つまり「江南」に「榎並」の字をあてたともいわれており、言い伝えによると、この地一帯は大榎の繁茂した地で、その森に住む鬼女を北面の武士が討ち取ったことから、この地を与えられ、榎を伐採して開墾したことによって「榎並」の名が起ったとも言われている。

<現・都島区>

毛馬、友淵、善源寺、沢上江(カスカエ)、内代中野、野田

<現・旭区>

赤川、荒生、中、江野、南島、森小路、今市千林、上辻、貝脇、馬場、別所、般若寺

<現・城東区> … 上記以外

